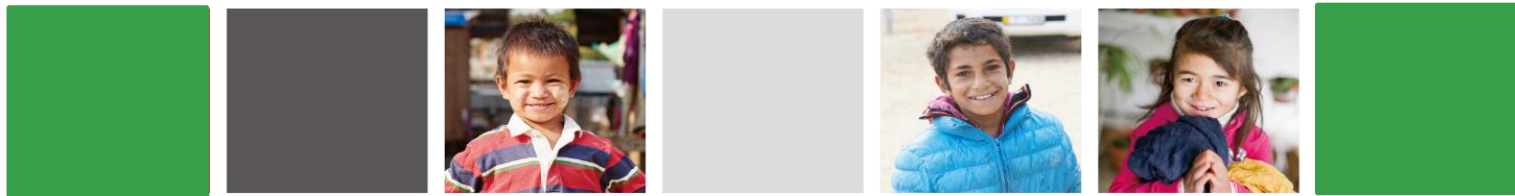




^{ふく}服の^{きそ}寄贈 フォトレポート

^{ねん}ど
2022年度
^{とど}届けよう、^{ふく}服のチカラ”プロジェクト



このレポートについて



「^{ねんど}2022^{とど}年度“^{ふく}届けよう、服のチカラ”プロジェクト」
にご^{さんか}参加いただき、ありがとうございました！
約^{やく}110^{まんちやく}万^{ふく}着^{あつ}もの服が集まりました。

みなさんが^{かいしゅう}回収した^{ふく}服は、^{こくれんなんみんこうとうべんむかんじむしょ}国連難民高等弁務官事務所
(UNHCR) と^{ちから}力を^あ合わせて、^{ふく}服を^{ひつよう}必要としている
^{なんみん}難民・^{こくないひなんみん}国内避難民の^こ子ども^{おく}たちにお送りします。

みなさんが^{かいしゅう}回収した^{ふく}服が、どのようにして
^{とど}届いているか、^{なんみん}難民の^{しゃしん}ストーリーと^{つた}写真でお伝えします。



みんなの^{がっこう}学校から^{おく}送られた^{ふく}服は、まず^{にほん}日本にある^{そうこ}倉庫に^{はこ}運ばれます。
^{ぜんこく}全国の^{がっこう}学校から^{とど}届いた^{ふく}服を^{おお}カテゴリーごとに^{おお}大きな^{おお}かごに^{おお}まとめて^{おお}いきます。



倉庫のスタッフが機械を使って50kgあるベールを作っていきます。ビニールでしっかり
 積み込み、現地に届けられるまで、雨にぬれたり、途中で汚れたりしないようにして
 いきます。そして船に積んで、服を本当に必要としている世界中の人々へ届けられます。



アルジェリアの基礎データ*

1. 面積 めんせき 238万平方キロメートル (アフリカ第1位) まんへいほう
2. 人口 じんこう 4,390万人 まんにん
3. 首都 しゅと アルジェ
4. 言語 げんご アラビア語、ベルベル語、フランス語
5. 宗教 しゅうきょう イスラム教

*外務省



©UNHCR/Hanifa Benaziza

～ウサマンさんのストーリー～
 ウサマンさんは妻と7人の子どもの9人
 家族。マリから逃れた後、アルジェリア
 に数年間暮らしています。
 もうすぐ冬が来ます。仕事があっても食
 べ物の価格が上がり、服を買う余裕はあ
 りません。ウサマンさんは、「私達が本
 当にサポートを必要としている時に、服
 を受け取ることができました。服を寄付
 してくれた人たちに感謝の気持ちでいっ
 ぱいです。」と話していました。



©UNHCR/Hanifa Benaziza



©UNHCR/Hanifa Benaziza

きび ふゆ さむ

厳しい冬の寒さをしのぐため配られた服は、

う と ひと ころろ あた

受け取った人びとの心をも温め、ころろの支えにもなっています。



©UNHCR/Hanifa Benaziza

くば ふく



きそ チャドの基礎データ*

1. 面積 めんせき 128.4万平方キロメートル まんへいほう
2. 人口 じんこう 1,691万人 まんにん
3. 首都 しゅと ウンジャメナ げんご
4. 言語 げんご フランス語、アラビア語、部族語130以上
5. 宗教 しゅうきょう イスラム教、キリスト教

*外務省



©UNHCR/Ngargoune Aristophane

～フォルドッサさんのストーリー～

フォルドッサさんは、ファルシャナキャンプで暮らす16歳さいの女おんなの子こです。彼女かのじょは、2021年の服ねん ふくを配くばったとき、4着ちゃくの新しい服あたをもらえたことに感激かんしゃしています。というのかのじょもきかいこの機会つうを通じて、難民なんみんキャンプで生活せいかつする中なかではじ初めて、新しい服あたを手ふくにすることができたからです。
 「私の親わたし おやには、私わたしに服ふくを買かってくれる余裕よゆうがほとんどありません。この新しい服あたのおかげで、私わたしはやっと同じ服おなを着ふくつづけるだけでなく、時々ときどき着替きがえをする楽しみたのみができたんです」彼女かのじょはそう語かたります。



©UNHCR/Ngargoune Aristophane

～アチェさんのストーリー～

アチェさんはスーダン・マカダ出身しゅっしん さい じょせいの43歳の女性です。2004年ねんにチャドのファルシャナキャンプに逃れてきました。夫を亡くした彼女は、6歳から14歳の6人の子どもを育てるシングルマザーです。「タバスキ・フェスティバル(イスラム教の大きなお祭り)の準備まつ じゅんびをしている今、新しい服いま あたら ふくをもらったのは、本当に最高のタイミングほんとうでした。お祝いのために子どもたちに新しい服さいこうを買うことを考えなくてよくなったのですから。家族みんなでお祭りに新しい服ふく か かんがを着ていくことが楽しみです。」彼女はそう話しました。



©UNHCR/Ngargoune Aristophane



©UNHCR/Ngargoune Aristophane

～アサディックさんのストーリー～

アサディックさんは、2004年にスーダンからチャドに逃
ねん のが
 れたスーダン難民です。7人の子どもの父であるアサディ
なんみん にん こ ちち
 ックさんは、「難民キャンプで服を配ることは、本当にあ
なんみん ふく くば ほんとう
 りがたく、ほめられるべき行いです。私のような子どもに
おこな わたし こ
 服を買ってあげることが難しい親たちに、子育ての辛さを
ふく か むすか おや こそだ つら
 少し忘れて、一息つく時間を与えてくれたことを本当に
すこ わす いといき じかん あた ほんとう
 感謝しています。子どもたち、特に特別な支援が必要な
かんしゃ こ とく とくべつ しえん ひつよう
 子たちにとって、同じ服ばかり着るのではなく、時々違う
こ おな ふく き ときどきちが
 服を着ることができるのは、大きな幸せなのです。」と
ふく き おお しあわ
 はな
 話しました。



シリア・アラブ共和国の基礎データ*

1. 面積 18.5万平方キロメートル (日本の約1/2)
めんせき まんへいほう
2. 人口 2,038万人
じんこう まんにん
3. 首都 ダマスカス
しゅと
4. 言語 アラビア語
げんご
5. 宗教 人口の約87%がイスラム教
しゅうきょう

*外務省



©UNHCR Saad Sawas

～ガジ君のストーリー～

いま さむ
 「今ですごく寒かったので、このジャケットをもらえて
 ほんとう さい くん えがお い
 本当にうれしいです！」15歳のガジ君は笑顔でそう言いまし
 くん かれ ふたり きょうだい なんねん まえ ひなんせいかつ おく
 た。ガジ君と彼の2人の兄妹は、何年も前、避難生活を送っ
 さい りょうしん な かれ きょうだい ひなんさき
 ていた際に両親を亡くしました。彼が、兄妹と避難先から
 そぼ いえ もど ねん くん かれ
 祖母の家に戻ったのは2018年のことでした。ガジ君と彼の
 きょうだい ふゆよう て ことし
 兄妹は冬用のジャケットを手にしたおかげで、今年はや
 さむ ふゆ あたた す
 っと寒い冬を暖かく過ごすことができるのです。



©UNHCREmad Kabbas



©UNHCREmad Kabbas

～ガジヤさんのストーリー～

す こくないひなんみん ※ひやと のうじょう
 シリアに住む国内避難民のガジヤさんは、日雇いの農場の
てつだ にん こ かぞく せいかつ ひとり
 手伝いをすることで、4人の子どもがいる家族の生活を一人
ささ かのじょ す のうそんぶ ちく
 で支えています。彼女が住む農村部の地区にはおおよそ
かぞく く かれ ことし
 106家族が暮らしており、彼らは今年UNHCRからプラスチ
でんち
 ックのシート、ブランケット、ソーラー電池のランプ
くわ ふゆもの う と
 などに加え、冬物のジャケットを受け取りました。「この
きふ なが ふゆ す わたし ひかり あたえ
 寄付は、長い冬を過ごす私たちに光を与えてくれます」。
かのじょ い よろこ
 彼女はそう言って喜びました。

※ひやと いちにちたんいはたらみじか きかん
 日雇い：一日単位で働く短い期間のアルバイトのこと。



©UNHCR Saad Sawas

～モハメッドさんのストーリー～

UNHCRのパートナー団体でコミュニティ支援のボランティアを行う20歳のモハメッドさん。

UNHCRとパートナー団体はシリアにて、寄付された冬服を14万2,800名もの難民・国内避難民、そして

紛争の影響を受けた地域の家族に配りました。

自分自身も住んでいた家を壊され、父と4人の兄妹と避難し

なければならなかった経験を持つモハメッドさんは、

自分よりも弱い立場にいる人びとのために働くことに大き

なやりがいを感じています。



©UNHCR/ S.Sawas



©UNHCR Rama Alkougou

くば さい う と ふく しゅるい いろ
 配る際に、それぞれが受け取りたい服のサイズや種類、色を
 えら 選ぶことができました。もらう服を自分で選べたことは、特に女性や
 こ たの わす けいけん
 子どもたちにとって、とても楽しく、忘れられない経験となりました。

いのち まも こせい ひょうげん
命を守る。個性を表現する。

みなさんがあつめてくれた、たくさんの「**服のチカラ**」。
くに こ げんち こ い
国を越えて、現地の子どもたちの生きるチカラになっています。
このレポートを見て、そのことを感じてもらえたら嬉しいです。

こま ひと じぶん あか みらい
困っている人たちのため、自分たちの明るい未来のため。
この活動をヒントに、自分にできることを続けていきましょう！

ほんとう
本当にありがとうございました！

とど ふく じむきよく
“届けよう、服のチカラ”プロジェクト 事務局